

# あの大地震から一年 あの時、そして今、 私たちは何を思い、感じたのでしょうか

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から一年が経とうとしています。あの日から私たちの生活は一変しました。今月は、町の皆さんに、震災当時に思ったことや、今までと変わってしまった生活の中で感じたことをお聞きしました。また、ボードには震災を体験して大切だと感じた一言を書いていただきました。



大塚 秀俊さん・秀子さん (中町)

**震** 災当日は、夫婦で自宅のリビングにいました。最初は、そんなに大変なイメージはなかったのに、揺れが止まらなくて、そのうち家中の物が倒れる音がしました。でもどうすることも出来なくて、ソファから動かせませんでした。

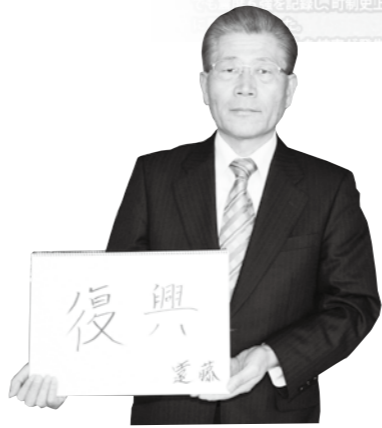
揺れが収まって最初に考えたのは、近くに住む両親や子供たちの事でしたね。両親たちの家もめちゃくちゃでしたが、無事が確認できてホッとしました。その後、自宅の片づけなどもひと段落したとき、ボランティア募集のチラシを見て協力しようと思いました。定年退職するまでは各地を転勤する生活をしていたので、定年後は何か地域の役に立てればと考えていたのがきっかけでした。主に被災した家屋の片づけをしていましたが、少しでも皆さんのお役に立って、喜んでもらえてよかったですと思っています。

もし、今後も除染ボランティアなどあればお手伝いしたいと思っています。

**地** 震が起こった直後から、これは大変なことが起こったと感じました。揺れが収まってからは、まずは、町民の安全第一だと、被害状況と危険個所の確認作業を指示しました。消防団の皆さんの協力もあり、状況の把握が迅速にできたと感じています。

その後、町内の状況が判明するにつれ、被害の深刻さを痛感しました。家屋の倒壊、ライフラインである上下水道と道路の寸断、農業分野でのパイプラインの破断、そして放射能による被害。これらについて、まずは、安全を第一に対策をとってきましたが、大きな混乱もなく一年が過ぎたのも、皆さんの落ち着いた対応の賜物だと思っています。改めて感謝いたします。

皆様の協力により、復興への道筋は見えてきています。今後、復興に向けての活動が本格化して参りますが、復興が着実に進むことはもちろん、これを機に新たなまちづくりにも取り組んでいきたいと考えています。



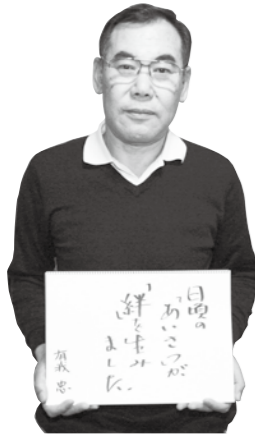
鏡石町長 遠藤 栄作

**自** 宅の居間にいると、揺れがどんどん大きくなってきたので、妻と一緒に外に飛び出しました。そこで、瓦が次々と落下するのを見て、これはもうダメだと感じました。

家の外に出ると、大きくうねった道路や垂れ下がった電線を見て、ショックを受けたのを憶えています。

区として、状況の把握や給水活動などやることは沢山ありましたが、区の役員や班長さん、育成会の皆さんがとも一生懸命協力してくれました。集会所が被災したり、倒壊した家屋が多くなる中でケガ人もなく、パニックにもならず済んだのは、皆さんの協力があったからこそだと思います。日頃から挨拶を交わし、近所のつながりを大切にしてきた結果ではないかと思いません。

私もまさかこんな大震災が起こるとは思っていませんでした。これからも地域の連携を深めるなど、今回の震災で経験したことを生かしていければいいと思います。



3区区長 有 我 忠さん(本町)



阿部 真由美さん・修己くん (鏡沼)

※本誌表紙撮影にも協力していただきました

**あ** の日は、子どもたちとリビングでくつろいでいました。地震が起きて、すぐに庭へ逃げることが出来ましたが、揺れている間は、子どもたちと一緒に、家の中の物が壊れる音を聞きながら、手を取り合っていました。お父さんや子供たち、家族みんながそろったときは本当にホッとしました。

今は、放射能汚染があり、健康のことを考えると、とても心配です。でも、子どもたちは、やっぱり友達がいる鏡石がいいと言っているので、食材に注意するなど、出来ることをやりながら過ごしています。

震災後、特に感じたのは、家族がそろっていられる事への幸せと、近所の方や親せきの方との絆です。それがあつたので、つらい時期もこのこえられたと感じています。いろいろと不安なことも多いですが、家族そろって前向きに生きていきたいと思っています。



鏡石一小6年 橋本 響くん(鏡沼)

**学** 校からの帰宅途中に突然地面が揺れました。一緒にいた友達が、しゃがんでじっとしていると叫んだのでみんなでじっとしていました。自分の家に帰る途中、壊れた家がたくさんあり、すごく不安な気持ちになりましたが、自分の家が見えたときはすごく安心しました。

校舎が壊れて二小に通うことになったときも、最初は、全く違う場所でも勉強することが出来るかどうか、とても心配でしたが、逆によく集中して勉強できましたし、二小のみんなたちとも友達になれてよかったです。

僕たち6年生と5年生は、仮設校舎で卒業を迎えることになり、今までの校舎で卒業できないことが少しさみしいです。

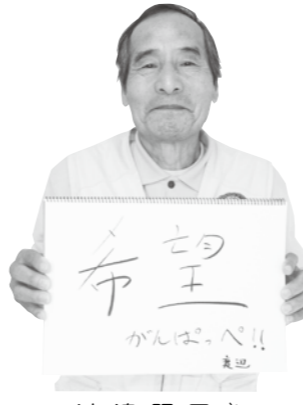
僕は、震災を体験してこれまでに以上に、友だちを大切にしようと思いました。無事に再会できた時の安心感や一緒にいられるという事の大切さを忘れないようにしたいです。

**ア** パート2階の私の部屋が激しく揺れ、すぐに外に逃げました。アパートは危険でも中に戻れる状態ではありませんでした。

それから、6月に仮設住宅へ入居するまでの間、避難所で過ごさざるを得ませんでした。避難所では寒さだったり、食料の問題があったり大変でしたが、みんな協力して、何とか乗り切ることが出来たと思います。

仮設住宅に入ってから、ただいましてしようがないと、仮設住宅の管理人を始めました。高齢者の方を中心に見まわると、みなさん交流もなく、さびしそうにされているので、声をかけると喜んでいただけるのがうれしいです。

地震直後は、年金暮らしの身で、住む所もなくなってしまい、これからどうしようかと暗い気持ちでした。でも、よくよしてもしょうがないと、最近ようやく希望をもって前に進もうという気持ちになりました。今の目標は、なるべく早くアパートを探し、自立した生活を送ることです。



渡邊 照 男さん (中央)

3月11日から私たちの生活は大きく変わりました。住む所を失った方、放射能というこれまでに体験したことのない災害、今なお、被害に苦しむ方がいる中で、皆さんから聞こえてきたのは、人と手を取り合って前に進むことの大切さでした。

取材をする中で、寒空の中、道路整備をしている自分へ、家からわざわざあたたかい飲み物を届けてくれた名前も知らない女子高生もいらっしやっというお話も聞きました。

震災で多くのものが失われた。しかし、人と人との絆という大切なものを、私たちは、震災を通して改めて見つけることが出来たのではないだろうか。

**震災の記憶、記録を募集します**

鏡石町では、東日本大震災について、次の世代に継承していくことを目的として、震災等の体験、記録(ホームビデオや携帯電話等に記録された映像など)、記憶、教訓等を募集します。ご協力いただける方は、次までご連絡願います。

◎問い合わせ先  
 総務課 ☎62-2111